

北播磨新地域ビジョン 骨子（案）

第 1 章 新地域ビジョン策定について

現行の全県ビジョンである「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年が経過し、社会潮流など本県を取り巻く環境も大きく変化していることから、“2050年の姿”を描く「新しい全県ビジョン」を策定することとなりました。

この「新しい全県ビジョン」の策定と軌を一にして、“2050年の北播磨の姿”を描く「北播磨地域ビジョン2050」を地域の皆さんの意見を踏まえて策定します。

〈北播磨地域ビジョンの策定経緯〉

新しい世紀を迎え、地域活動に対する住民意識の高まりの中で、「北播磨地域ビジョン」を2001（平成13）年2月に策定し、その後、点検・見直しを行い、2011（平成23）年11月に「北播磨地域ビジョン2020」を策定しました。

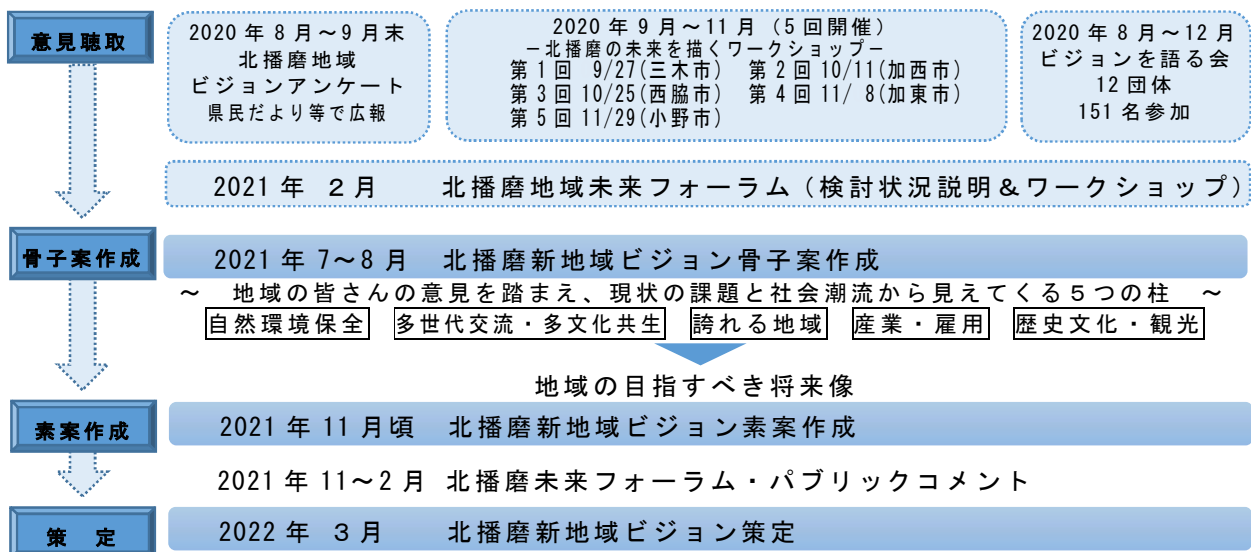
| 策定時期 | 名称【想定年次】 | 目指すべき地域の姿 |
|----------|---------------------------|--|
| 2001年2月 | 北播磨地域ビジョン 【2010～2015年】 | ひょうごのハートランド * 地域住民のハート及び兵庫県のハートにあたることを生かしたよりよい地域にという願い |
| 2011年11月 | 北播磨地域ビジョン2020 【2020年】 | |

〈新地域ビジョンの検討にあたり考慮すべき主な社会潮流〉

| 項目 | 主な内容 |
|-----------|--------------------------------|
| 人口減少・超高齢化 | 本県人口 550万人→420万人、高齢者人口 27%→40% |
| 自然の脅威 | 大規模気候変動、災害の激甚化、感染症リスク高まり |
| テクノロジーの進化 | AI・IoT技術の進化、自動運転等の普及、医療の進歩 |
| 世界の成長と一体化 | 日本のGDP 3位→5位、人の移動の活発化（移民も増加） |
| 経済構造の変容 | 経済のデジタル化、取引費用の低廉化 |
| 価値観と行動の変化 | SDGs（持続可能性）の取組推進、ローカル志向の胎動 |

〈新地域ビジョン策定スキーム〉

策定主体：北播磨新地域ビジョン検討委員会（2020年7月発足）・起草部会（2021年1月設置）



第2章 北播磨地域の現状

新地域ビジョンで示す30年後の北播磨地域のあるべき姿の検討にあたっては、北播磨地域の現状や特性などを把握することが最も重要です。そのため、この章では現状（社会潮流を踏まえ、今後想定される動向等を含む）及び北播磨の将来を考えるためのポイントとなるキーワードを整理しています。

(1) 地勢・気候

兵庫県のほぼ中央、大阪・神戸の都市部から車で約1時間と至便な距離にあります。県下最大河川「加古川」を中心に播州平野が広がる県下有数の水田農業地域（県内耕地面積の19.6%）となっており、温暖な気候と相まってのどかな田園風景を形成しています。

一方で、公共交通機関が限られ、地域内外の移動や生活面での利便性が低い面があります。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

① のどかな田園風景（播州平野、田畑が多い、疎水・ため池等）

⇒ **北播磨地域の特性**

● 田園風景（自然環境）の保全（生態系保全、農業振興等）

● 北播磨らしい観光交流資源（北はりま田園空間博物館事業等）

② 30年後は、運転技術が不要の完全自動運転やドローンによる宅配、空飛ぶクルマドローンの登場が想定され、生活の利便性向上への期待

⇒ ● 生活利便性の向上

(2) 人口

管内の人口は、2020（令和2）年12月現在で約26万3千人（全県の4.8%）となっており、2050（令和32）年には約18万7千人（7万6千人減）になると推計されています。また、最近は特に20代女性の転出が多くなっています（転出全体の約4割）。

一方で、在留外国人口は直近5年で倍増しており、令和3年4月現在は約6,800人が居住し、地域内の製造業の貴重な担い手となっています。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

③ 人口減少（2020年26.3万人→2050年18.7万人）、20代女性の転出超過が多い

⇒ ● 移住・定住の促進

● 子育てしやすい環境の整備

● コミュニティの維持（地域の絆の醸成）

● 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

● 空き家等の活用

④ 外国人の増加

⇒ ● 多文化共生

(3) 自然環境

北播磨地域の森林面積は、地域面積の53.6%（全県66.6%）で、天然林はそのうち67.7%（全県55.5%）を占めており、希少動植物が生息する県指定天然記念物“あびき湿原”など多くの自然が残っています。

一方で、不法廃棄物投棄も多いことから、自治会等と連携してパトロール

の強化などによる未然防止対策を進めています。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑤天然林や公園等が多く、自然が豊かという一方で、不法廃棄物投棄が多い
⇒●自然環境の維持・保全

(4) 「農」と「食」

全県の86.3%の作付面積を占める全国に誇る酒米「山田錦」をはじめ、黒田庄和牛、播州百日どりなどの特産品が多くあります。さらに、付加価値の高いプラチナぶどう、新品種の黒枝豆「ひかり姫」など新たなブランド、テクノロジーを活用した新しい農業ビジネスモデルの確立に向けた取組が進められています。

農業人口は減少していますが、新型コロナウイルス感染症などを契機に、若い世代を中心に地方暮らしへの関心が高まるなか、就農をはじめ、「農」や「自然」をビジネスとして捉える動きが広がっています。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑥全国に誇る酒米「山田錦」の産地で、県内一の水田農業地域。その他、黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう、ハポタンなどの「農」「食」関係の特産品が多い
- ⑦テクノロジーを活用した新しい農業ビジネスモデルが生まれている
- ⑧農業人口が減少
- ⑨新型コロナウイルス感染症などを契機に若い世代の地方暮らしへの関心が高まり、就農をはじめ「農」や「自然」をビジネスとして捉える動きが広がっている
- ⑥⑦⑧⑨⇒●「農」と「食」の魅力づくり
 - テクノロジーの活用
 - 新しい働き方・若者のフロンティアの創出
 - 起業・副業の促進

(5) 防災・防犯

災害時には、自治会等自主防災組織（組織率99.9%）や消防団（団員数約6,500名で県下一）が大きな役割を担っています。また、県下一の耕作面積を誇る水田等が貯水機能を果たすことにより、被害が軽減されます。しかしながら、消防団員数や水田等の面積は減少傾向にあります。

また、犯罪については、SNS等仮想空間上の犯罪が増加するなど多様化しています。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑩歴史的に大きな災害に見舞われたことがない地域。災害時に自主防災組織、消防団、水田等の貯水機能が一定の役割を果たす一方、消防団員数、水田等の面積が減少傾向
- ⑪犯罪認知件数は全県を下回っているが、全国的に仮想空間を使った犯罪増加
- ⑩⑪⇒●防災・防犯意識の向上

(6) 交通インフラ

公共交通機関として、JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道、神姫バスがあります。高齢化やテレワークの進展等により利用者は減少傾向にありますが、利用促進の取組等により維持していくことが重要になります。

一方、高速道路については、中国自動車道及び山陽自動車道が横断し、舞鶴若狭自動車道と神戸淡路鳴門自動車道とを結ぶ、東西南北の結節点となっ

ており、交通利便性が高い地域となっています。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑫ JR加古川線等公共交通機関は、通勤・通学、観光客にとって貴重な交通手段
- ⑬ 北播磨地域は、高速道路網における東西南北の結節点で利便性が高い
- ⑭ 将来、運転技術が不要の完全自動運転時代の到来が期待される

⑫⑬⑭⇒●交通インフラの維持・整備

(7) 少子高齢化・医療

65歳以上の高齢化率（令和2年2月現在）は、32.2%で全県の28.7%を上回っており、2050（令和32）年には、男性で84.02歳（2015年80.75歳）、女性で90.40歳（2015年86.98歳）と超高齢化になると予測されており、今後、高齢者福祉・医療の充実が必要となります。

また、合計特殊出生率は1.52（平成27年、全県1.48）で少子化傾向が続いているため生産年齢人口が減り続け、2050（令和32）年には生産年齢人口が、現在の約14万6千人から約9万人になると推計されます。今後は、高齢者を社会の担い手として捉えることが必要になると思われます。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑮ 2050年には平均寿命が男性で84.02歳（2015年80.75歳）、女性で90.40歳（2015年86.98歳）とそれぞれ3歳以上伸び、超高齢化が進む

⇒●高齢者福祉・医療の充実

- ⑯ 少子超高齢化により、生産年齢人口が減少し、高齢者を社会の担い手として捉える必要

⇒●新たな働き方（コミュニティビジネス等）

- 多世代交流
- 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育
- 地域の絆の醸成

(8) 地域の絆・多世代交流

人口減少・超高齢化により、小規模集落が増加（参考：高齢化率40%以上かつ世帯数50戸以下の小規模集落はR1.9月現在 34集落）するなど、地域コミュニティの維持が困難な状況となりつつあります。維持・活性化させていくためには、若い世代に定着してもらい、協力を得ながら、住民同士が助け合うような取組がより重要となります。

さらに、近年労働力の担い手として増加している外国人とも相互理解を深め、地域社会の一員として、コミュニティを盛り立てていくことが必要です。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑰ 人口減少・超高齢化で小規模集落が増加している。コミュニティを維持・活性化するには、若い世代に定着してもらい、協力を得ながら、住民同士が助け合うことが重要

⇒●地域の絆の醸成

- 多世代交流
- 子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

- ⑱ 外国人とも相互理解を深め、地域社会の一員として協力しながらコミュニティを盛り立てていくことが必要

⇒●多文化共生

(9) 子育て環境・ふるさと意識の醸成・教育

「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査の結果(以下参照)を踏まえ、今後ふるさととの良さを知ってもらう取組を進めていく必要があります。

また、兵庫教育大学等管内の教育機関等との連携により、学術教育面で成果を上げることができれば、関係機関の集積を促し、地域全体が学術教育・研究のメッカとなるような可能性も秘めています。

学術研究の成果や人材が産業面にフィードバックされることになれば、地域産業の振興、雇用にもつながり、大きな波動となって北播磨地域を豊かにすることになります。

〈「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査〉

- 「心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合」
1位・45.9% (全県38.4%)
- 「伸び伸びと育っていると思う人の割合」
3位・71.4% (全県68.0%、1位：阪神北75.1%)
- 「子育てがしやすいと思う人の割合」
5位・53.9% (全県55.9%、1位：阪神北68.0%)

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ①9 県民意識調査の結果、「心豊かに伸び伸びと育っている」という評価であるが、「子育てのしやすさはふつう」という評価
 - ②0 次世代へ継承を図る地域学習として東条川疏水を取り上げ、加東市や小野市の小学校で、兵庫教育大学と連携した出前講座や現地学習を実施
 - ②1 兵庫教育大学、県立教育研修所、県立嬉野台生涯教育センターが近接しており、一部市町の小中一貫校設置の動きと相まって、連携・役割分担により学術教育面での実績をあげることができれば、地域全体が学術教育・研究の一大メッカとなる可能性を秘めている
- ⇒ ①9 ②0 ②1 ●子育てしやすい環境の整備
●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

(10) 産業・雇用

令和元年度の管内総生産(名目)は、1兆1,340億円で、全県の5.3%を占めています。また、東西南北の高速道路網の要衝という良好な立地から工業団地が多く、製造業が36.6%と県下で最も製造業の割合が高い地域です。

また、播州織、利器工匠具・家庭刃物、そろばん、釣針といった地場産業は、北播磨地域の発展に大きく貢献してきた「宝」であり、海外製品との競合等による厳しい状況を打破する活路を見い出していく必要があります。

今後、情報通信網の充実を図り、AI等テクノロジーの活用による新しい産業の創出や副業として農業に参画できるような仕組みづくり等多様な働き方が選択できれば、移住・定住・地域経済の活性化につながります。

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ②2 北播磨地域の地場産業(播州織、利器工匠具・家庭刃物、そろばん、釣針)は、全般的に海外製品との競合や消費者ニーズの多様化等により厳しい状況。地場産業は北播磨地域の「宝」であり、今後さらに成長を続けていくためには工夫が必要
- ⇒ ●地場産業の活性化

【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ⑳人口減少に伴い、経済・地域活力の低下を危惧。これを防ぐため、AIやIoTなどのICT技術を活用した生産性の向上や新しい産業・雇用を創出し、若い世代の確保・定着、UIJターンなど移住・定住を促進する取組が必要
- 〈30年後の製造業例〉
- AI 頭脳を持った人間型ロボットの製造
 - ゲノム解析技術等の向上による先端機器・医薬品の製造
 - 電動自動車・空飛ぶクルマドローンの実験場・製造
- ⇒●テクノロジーの活用
- 新しい産業・雇用の創出
 - 移住・定住の促進
- ㉑働き方改革や新型コロナウイルス感染症の拡大、情報通信網の発達により、地方でIT関連事業を起業する人や副業を認めたり・奨励する企業が増加
- 情報通信技術の充実や空き家・廃校の有効活用、例えば副業として農業に参画できる仕組づくりなどにより移住・定住、地域経済の活性化
- ⇒●起業・副業の促進
- 新たな働き方、若者のフロンティア（コミュニティビジネス等）の創出
 - 空き家等の活用
 - 移住・定住の促進

(11) 歴史文化・観光

国宝建造物3か所（浄土寺（小野市）、一乗寺（加西市）、朝光寺（加東市））のほか、昭和初期の洋風木造校舎の西脇小学校（西脇市）や上鴨川住吉神社の神事舞（加東市）、900年以上の歴史を有する杉原紙（多可町）、紫電改ゆかりの鶉野飛行場跡（加西市）など、歴史文化資源が豊富です。

また、のどかな田園風景や「湯の山街道」等の歴史的風情のあるまちなみ、フラワーセンター等の公園施設など、フットパス、サイクリングに最適な地域です。播磨中央公園（加東市）では、サイクルスポーツの拠点としてBMX（バイクトリクス）レース等の自転車競技場整備も予定されています。

参考：（観光客入込数）令和元年度 13,941 千人、全県の 10.2%（136,508 千人）

このような既存のコンテンツに加え、今後さらに、サバイバルゲームやドローンの飛行場など、若い世代のメッカとなるような新たな地域資源を作り出すことにより関係人口・交流人口の増加につながります。

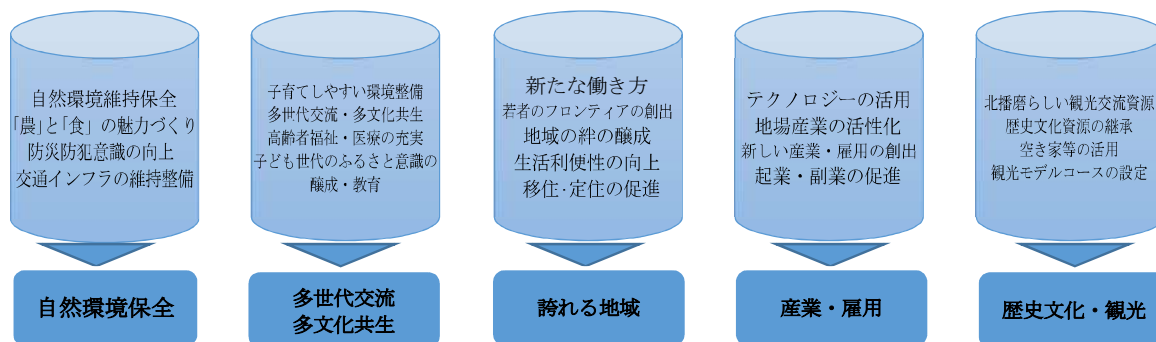
【ビジョンを考えるためのポイント！】

- ㉒国宝建造物や重要文化財など、魅力的な歴史・文化があり、地域の魅力発信では最も基本となる重要なコンテンツ
- ⇒●歴史文化資源の継承
- 北播磨らしい観光交流資源
- ㉓歴史的風情のあるまちなみやレクリエーション公園などフットパスやサイクリングに最適な地域
- ⇒●北播磨らしい観光交流資源
- ㉔それぞれの観光資源を磨き、魅力を向上させ広域的に組合せ、ストーリー性のあるモデルコースを発信するなど、面でPRしていくことが重要
- ⇒●観光モデルコースの設定
- ㉕若い世代の関係人口・交流人口を増やすためには、新たな地域資源を作り出すことも必要
- ⇒●北播磨らしい観光交流資源

第3章 北播磨の将来に対する地域の皆さんの思い

第2章の現状から見据えたキーワードから、30年後の北播磨地域のあるべき姿として、5つの柱に分類し、柱ごとに地域の皆さんの思いを整理しました。

(1) 5つの柱立て



(2) 地域の皆さんの意見の整理

北播磨の現状から見据えた「ビジョンを考えるためのポイント！(①～⑳)」に提示したキーワードについて、地域の皆さんからいただいた主な意見を記載しています。

- 《意見交換等概要》
- I 北播磨地域ビジョンアンケート調査
 - II 北播磨の未来を描くワークショップ
 - III ビジョンを語る会⇒「30年後の北播磨について」

| 自然環境保全 |
|---|
| <p>●自然環境（田園風景）の維持・保全(①⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物など自然と共生、自然と調和、美しい田園風景の保全を目指す ・自然環境が今のまま残り二地域居住先として自然や食の豊かさが今以上に際立つ地域であってほしい ・県内有数の水田農業地域であるため、農林水産省戦略の脱炭素社会（2050年までに有機農業を農地の25%まで拡大）に県内で率先して取り組む素地がある |
| <p>●「農」と「食」の魅力づくり(⑥⑦⑧⑨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン案「人と自然がゆるくつながる北播磨」 ・北播磨地域の山や川が育ててきた自然の恵みを受け継ぎブランド化して、魅力を発信し続ける ・おもしろ農作物の生産と販売。（形が変形や大きい商品価値のないものに付加価値を付け食品ロスをなくす） |
| <p>●防災・防犯意識の向上(⑩⑪)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み良い地域。災害の少ない地域だからこそ、そのことに甘えてはならないと考えることがある。 ・近隣市町との連携をとること。また防災減災の為に日頃より訓練、教育、啓蒙に力を入れることが大切である ・京阪神ではコンクリートにアスファルト、点々と緑地。北播磨ではすぐ水田を目にし、初夏は緑の絨毯で彩る。食糧と防災のため水田を減らしてはいけない |
| <p>●交通インフラの維持・整備(⑫⑬⑭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が移動できる交通手段の確保 ・地域住民のための自然環境に配慮した交通インフラ維持と観光や交流事業を活発にするための交通の利便性の向上が必須 |

多世代交流・多文化共生

●子育てしやすい環境の整備(③⑯⑳㉑)

- ・デザイン案「やりたいを叶えるグローバルな北播磨」
「ここにいると何もできない」という閉塞感でなく、身近な環境で地域の大人から学ぶ機会
- ・子育て世帯への支援(医療費・安心して働けるサービス等)の充実
- ・日本の最先端をいく「子どもにやさしい地域」。子育ての障害になる発達・成長を阻害する化学物質農薬フリーの農作物、食品、いじめや虐待を許さない地域づくりで、子どもが増えていく

●多世代交流(⑯⑰)

- ・小学校の空き教室は、高齢者へ開放し、交流学习をする。お年寄りを思いやる子に育つ。地域で子育て。子育て世代には託児所代わりにもなる。歴史の伝承も行う

●多文化共生(④⑩)

- ・デザイン案「共に創ろう北播磨」
多様な人にとって暮らしやすい共生社会を実現するには、多様な人を受入れる意識改革が必要。
- ・地域内のコミュニケーション交流機会を充実させる
- ・様々な言語の生活情報の支援、市民団体などのコミュニティが主催する祭りやイベントへの外国人居住者の参加、ALTは学校だけでなく地域でも同様の役割が拡がりを期待する

●高齢者福祉・医療の充実(⑮)

- ・AI技術の進歩で、障がい者・高齢者支援、医療格差解消し、高齢者に住みやすい環境をつくるには介護サービスを充実させる
- ・有人のデマンドタクシー又は、高齢者対象に福祉タクシーの利用が可能に！
- ・地場産業「播州そろばん」を活用した脳トレを掛け合わせて高齢者のモデルタウンとし、シルバー労働力の供給源とする(コミュニティビジネス等)

●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育(③⑯⑰⑱⑳㉑)

- ・北播磨地域の廃校に5G・6G次世代通信網を整備して塾や大学授業が受けられる
- ・良い教育が受けられ、芸術文化活動も首都圏に劣らない機会のある地域になれば、若い世代の定着・転入も増える
- ・地域や祖父母による子育て支援により、子どもたちの創造力・行動力・チャレンジ精神を養うことができ、子どもが活躍できる地域になる
- ・子どもが小さいうちに、ベトナムで宗教心を育てるように、人間性を育てること、文化を大切にする教育

誇れる地域

●新たな働き方・若者のフロンティアの創出(⑥⑦⑧⑨⑯㉔)

- ・若者の挑戦の芽を摘むことなく挑戦して失敗できる地域であれば誇れる地域になる
- ・在宅勤務をしながら自然を楽しむライフワークの定着
- ・米作りでお金儲けを進めるのではなく、米作りを通じた人と人とのコミュニケーションを図ることへ考え方をシフトする

●地域の絆の醸成(③⑯⑰)

- ・働き手となる若者や外国人労働者にとって、また高齢者、若者、外国人、全員が等しく住みやすいと感じられる地域
- ・デザイン案「べっちょない精神がつなげるまち」
それぞれが自分らしく自己実現をして発信し、繋がりながら北播磨の文化を創る地域。チャレンジする人材と、それを応援する文化で成り立つ
- ・あらゆる年代層が、住んで良かった、いずれは帰ってきたい、ずっと住み続けたいと思える地域
- ・小さな子どもからお年寄りまで、心身ともに健やかに、元気に過ごしてほしい。誰か一人が取り残されることなく、皆が幸せを感じられるような、「おかえり」といつてもらえるような温かな場所

●生活利便性の向上(②)

- ・利便性が良く魅力的でないとは住まない
- ・子ども達が移動できる交通手段の確保(再掲)

●移住・定住の促進(③㉓㉔)

- ・今までの経験を生かして個人のやりたいことを実現したい

- ・受け入れ側はおもしろがる関係を築ける土壌がある
- ・移住者にとって、この地域が気に入り移住をしたので目鼻先の人口増のみを目標にした開発は危険を伴う。もともとこの地域に住んでいた人の見解と、わざわざこの地域を選んで越してきた人との見解の違いをきちんと精査してほしい
- ・地域内とは異なるノウハウを持った地域外の人が参画し、地元の若者などとの協働を通して、地域の課題解決に貢献する。そうした土壌づくりは今後の地域資源となっていくのではないかと

産業・雇用

●テクノロジーの活用(⑥⑦⑧⑨⑩)

- ・北播磨地域は農村部でありながら都市的な生活様式。急激な技術革新、デジタルトランスフォーメーションが進展し、生活、自然、産業等でテクノロジーをうまく活用し応用が必要。農村の多様な土地利用を新技術で適切に維持管理していくためには、これまでの役割を新技術で代替する検討の進展が望まれる。
- ・密でない農村環境が功を奏して空を活用できる時代になる
- ・通勤・通学・観光には環境に優しい自転車利用、超小型モビリティが発揮する
- ・人口密度の低い地域だからこそ、最先端技術の実証実験地となる

●地場産業の活性化(⑫)

- ・VR(バーチャルリアリティ)空間における商取引が普及し、播州織のデザインを活かしたアバターの販売や、VR空間を通じた播州織商品のネット販売が拡大するなど、新たな販売チャンネルで地場産業が独自の強みを発揮

●新しい産業・雇用の創出(⑬)

- ・空と陸をつなぐHub機能による巨大物流ネットワークによる産業都市を展開する
- ・農工商のバランスがとれた良い特性を活かし価値創造して新たな産業を創出。VR空間のビジネス展開

●起業・副業の促進(⑥⑦⑧⑨⑭)

- ・若者が伸び伸びと活躍できる農村づくり
- ・アイデアがビジネスにつながる環境や、また地域貢献や新たな経験を目的に副業を始めるための、スタートアップ集積地へと展開する

歴史文化・観光

●北播磨らしい観光交流資源(①⑤⑥⑭)

- ・行政・民間・専門機関が一体となり典型的な目玉「THE北播磨」で観光ツーリズムの継続的な取り組みが必要
- ・「オアシス」として都市住民に癒しを提供する場だけでなく、「サードプレイス」として都市住民が北播磨のコミュニティと緩やかにかかわり、地域住民との創造的な活動につながるような場へ展開する

●歴史文化資源の継承(⑮)

- ・5市1町に点在する歴史的資源を、平和教育、環境教育、歴史教育、社会教育等に生かし、公的な集団を集客するために各市町一体で資源の可視化等の取り組みで継承する
- ・江戸、京都よりも古い歴史・文化がゴロゴロあるのにまだ誰も可視化やタグ付けができておらず、専門家の知識どまり

●空き家等の活用(③⑭)

- ・5年～10年で自由に空き家に入出入りして循環できる住まいの流動性が、受入れられるかが今後の農村地域に必要な
- ・廃校・空き家を利用した若者が集まる「オモシロイ」仕掛けで交流が広がる

●観光モデルコースの設定(⑰)

- ・里山整備、河川支流のピオトープ整備で校外授業や家族遊びで地域・三世代交流や、東条川疏水整備で東条湖、昭和池等のストーリー仕立ての観光コースを設定する
- ・加古川沿いの風景を楽しめる、西脇市のへそ公園を起点とした、加東市滝野の鬮竜灘、播磨中央公園へのジョギングコースづくり

第4章 地域の方向性

第2章及び第3章を地域の方向性として整理し（5つの柱）、持続可能な地域を目指します。

自然環境保全

●自然環境(田園風景)の維持・保全

(現状)のどかな田園風景、天然林や公園が多く自然が豊かという一方で不法廃棄物投棄が多い
(意見)動物など自然と共生、自然と調和、美しい田園風景の保全を目指す

●「農」と「食」の魅力づくり

(現状)全国に誇る山田錦の産地、県内一の水田農業地域。その他黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう、ハボタンなどの「農」「食」関係の特産品が多い。

(意見)デザイン案「人と自然がゆるくつながる北播磨」北播磨地域の山や川が育んできた自然の恵みを受け継ぎブランド化して、魅力を発信し続ける

●防災・防犯意識の向上

(現状)歴史的に大きな災害に見舞われたことがない地域である。災害時には自主防災組織、消防団、水田等の貯水機能の一定の役割を果たしているが、消防団員数、水田等の面積が減少傾向。犯罪認知件数は全県を下回っている。

(意見)防災減災の為に日頃より訓練、教育、啓蒙が大切。初夏の緑の絨毯で彩る水田は食糧と防災のため減らしてはいけない

●交通インフラの維持・整備

(現状)公共交通機関は通勤・観光客等に貴重な交通手段である。高速道路網は東西南北の結接点であり利便性が高く、将来、完全自動運転時代の到来が期待される

(意見)子ども達が移動できる交通手段の確保。地域住民のための自然環境に配慮した交通インフラ維持と観光や交流事業を活発にするための交通の利便性の向上が必須

多世代交流・多文化共生

●子育てしやすい環境の整備

(現状)20代女性の転出超過が多い。県民意識調査では「心豊かに伸び伸びと育っている」、「子育てのしやすさはふつう」という評価
(意見)デザイン案「やりたいを叶えるグローバルな北播磨」「ここにいると何もできない」という閉塞感でなく、身近な環境で地域の大人から学ぶ、日本の最先端をいく「子どもにやさしい地域」は、子育てに障害になることを排除した地域づくりをすること

●多世代交流・多文化共生

(現状)多世代、外国人などが相互理解を深め、地域の一員としてコミュニティを盛り立てる

(意見)デザイン案「共に創ろう北播磨」多様な人が暮らしやすい共生社会の実現は、多世代・多様な人・文化を受入れる意識改革が必要

●高齢者福祉・医療の充実

(現状)2050年には平均寿命が男性84.02歳、女性90.04歳と3歳以上伸び、超高齢化が予想され高齢者福祉の充実、医療の進歩が必要
(意見)AI技術の進歩で、障がい者・高齢者支援、医療格差解消し、高齢者に住みやすい環境をつくるには介護サービスを充実させること

●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育

(現状)次世代へ継承を図る地域学習として東条川疏水を取り上げ、加東市や小野市の小学校で、兵庫教育大学と連携した出前講座や現地学習を実施

(意見)地域や祖父母による協力や助け合いにより、子どもたちの創造力・行動力・チャレンジ精神を養うことができ、子どもが活躍できる地域になる

誇れる地域

●新たな働き方、若者のフロンティアの創出

(現状)若い世代の地方暮らしへの関心が高まり、就農や「農」や「自然」をビジネスとして捉える動きが広がっている

(意見)若者の挑戦の芽を摘むことなく、挑戦して失敗できる場所であれば誇れる地域になる

●地域の絆の醸成

(現状)人口減少・超高齢化で小規模集落が増加している。コミュニティを維持・活性化するため若い世代が定着し、住民同士が助け合うことが必要

(意見)デザイン案「べっちょない精神がつなげるまち」それぞれが自分らしく自己実現をして発信し、繋がりがながら北播磨の文化を創る地域。チャレンジする人材と、それを応援する文化で成り立つ。

●生活利便性の向上

(現状)30年後は運転技術が不要の完全自動運転等により生活の利便性は向上すると想定される

(意見)生活の利便性が良く魅力的でないと人は住まない

●移住・定住の促進

(現状)AIやIoTなどのICT技術を活用した生産性の向上や新しい産業・雇用の創出等で、若い世代の移住・定住を促進する

(意見)地域内とは異なるノウハウを持った地域外の人が参画し、地元の若者などとの協働を通して地域の課題解決に貢献する。

産業・雇用

●テクノロジーの活用

(現状)人口減少に伴う地域活力の低下を防ぐため、テクノロジーを活用した新しい農業ビジネスモデルが生まれている

(意見)密でない農村環境が功を奏して空を活用できる時代になる。通勤・通学・観光には環境に優しい自転車利用、超小型モビリティが発揮する

●地場産業の活性化

(現状)地場産業は北播磨地域の「宝」。今後さらに成長を続けていくためには活路を見いだす等の工夫が必要

(意見)VR(バーチャルリアリティ)空間での商取引が普及し、播州織デザインを活かしたアパターの販売や、VR空間を通じた播州織商品のネット販売が拡大するなど、新たな販売チャネルで地場産業が独自の強みを発揮

●新しい産業・雇用の創出

(現状)人口減少に伴う経済・地域活力の低下を防ぐため、AI頭脳を持った人間型ロボットや、ゲノム解析技術等の向上による先端機器・医薬品の製造、電動自動車・空飛ぶクルマドローンの実験場・製造などの新たな産業・雇用を生み出す

(意見)空と陸をつなぐHub機能による巨大物流ネットワークで新しい産業都市を展開する

●起業・副業の促進

(現状)働き方改革や新型コロナウイルス感染症の拡大、情報通信網の発達により地方でIT関連事業の起業や副業を認める企業が増加

(意見)アイデアがビジネスにつながる環境や、また地域貢献や新たな経験を目的に副業を始めるための、スタートアップ集積地へと展開する

歴史文化・観光

●北播磨らしい観光交流資源

(現状)歴史的風情のあるまちなみやレクリエーション公園などフットパスやサイクリングに最適な地域

(意見)行政・民間・専門機関が一体となり典型的な日玉「THE北播磨」で観光ツーリズムの継続的な取組みが必要

●歴史文化資源の継承

(現状)国宝建造物や重要文化財など、魅力的な歴史・文化があり、地域の魅力発信では最も基本となる重要なコンテンツ

(意見)5市1町に点在する歴史的資源を、平和教育、環境教育、歴史教育、社会教等に生かし、公的な集団を集客するために各市町一体で資源の可視化等の取組により継承することが必要

●空き家等の活用

(現状)空き家や廃校を、サバイバルゲームなど若い世代のメッカになるように有効活用することも考えられる

(意見)5年~10年で自由に空き家に入居して循環できる住まいの流動性が受け入れられるかが、今後の農村地域に必要。廃校等を利用した若者が集まる「オモシロイ」仕掛けで交流が広がる

●観光モデルコースの設定

(現状)観光資源を磨き魅力を向上させ広域的に組合せ、ストーリー性のあるモデルコースの発信など、面でPRすることが重要

(意見)里山整備、河川支流のピオトープ整備、東条川疏水整備で東条湖、昭和池等のストーリー仕立ての観光コースを設定

第5章 新地域ビジョンの目指す将来像

新地域ビジョンでは、30年後の北播磨地域の“あるべき姿”を描いています。

目指す将来像

田園の恵みが生み出す ここちよい 未来の暮らし

～ ひょうごのハートランド・北播磨 ～

北播磨地域は兵庫県の中央に位置し、県下最大の河川「加古川」が中央部を貫流しており、流域には播州平野が広がっています。また、温暖な気候に恵まれていることもあり、県下有数の水田農業地域であることから、夏は緑の絨毯、秋は黄金色に彩られる“田園風景”は、未来へ残していきたい北播磨の光景です。

田園は風景だけでなく、自然の恵み、食の恵み、ゆったりとした時間など人々の心身に良い影響を与えます。北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、“こちよい”暮らしを生み出し、誰もが心豊かな北播磨を創造します。

将来像の実現に向けた5つの柱

地域の皆さんの意見を踏まえて、次の5つの柱により、将来像の実現に向け取り組んでいきます。

◆ 自然環境保全

～**きらめいて！自然の恵みが楽しめる豊かな暮らしを育てます～**

播州平野を貫流する加古川や疎水による田園風景や、山や川が育ててきた自然の恵みを受け継ぎながら、変わらない自然と生命とが共生する環境を保全します。また、自然災害にも備えた交通インフラの整備等を通じて“豊かな”暮らしを実現します。

◆ 多世代交流・多文化共生

～**たのしんで！世代と文化を越え、誰もが笑顔であふれます～**

年齢、性別、国籍を越えて、多様な人々が交流し、共に助け合い、支え合う、笑顔あふれるふるさとにします。

◆ 誇れる地域

～**はつらつと！「べっちょない精神」でつながります～**

「べっちょない」（「べっちょない」は大丈夫！という方言です）で支え合う絆をつむぎ、自分らしい生き方・働き方・暮らし方・学び方にチャレンジできる地域にします。

◆ 産業・雇用

～**リードする！産業の未来を切り拓きます～**

北播磨の「宝」である地場産業を元気にし、最先端技術を使った新しい産業や新しい農業の萌芽の場にします。

◆ 歴史文化・観光

～**また来たい！「オモシロイ」で集います～**

のどかな田園風景の中でのサイクリング、歴史文化資産の探訪、ドローンでの空中散歩など、アナログとバーチャルの両方が楽しめる北播磨ならではの“オモシロイ”で人を惹きつける地域にします。